



「楓の風」らしい看護の取り組みを発信

# KAEDE TIMES 2025

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤



ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介する、ニュースレターをはじめました！

ee

# Case 5

2025 Vol.5

難病や障害を抱える方の暮らしは、医療面だけでなく、**生活環境や社会資源の不足**によっても大きく揺らぎます。孤立の中でSOSを発しても届かない現実があります。

今回の事例では、ご夫婦が共に困難を抱える中で、**社会資源を結びつけ生活基盤を整えた**過程を紹介します。

## ケース

## ご夫婦ともに車椅子生活で孤立。繰り返す褥瘡をきっかけに訪問介入

交通事故により、ご夫婦とも60歳代前半で下半身不隨に。車いす生活で自己導尿・排便処置が必要。繰り返す褥瘡悪化を機に、病院から訪問看護依頼がありました。

自宅は**犬の糞尿が散乱する不衛生な環境**でしたが、人を入れることを拒み、支援には結びついていませんでした。

### 「社会保障制度のすきまで支援が届かず…訪問看護介入が支援のきっかけに」

**年齢的に介護保険の介入もなく、障害課も実態把握できていない状況。**制度のすきまでです。

さらに、訪問当初、**抵抗感も強く**ありました。

しかし看護師が褥瘡処置を続けながら「安全に生活を守るために必要なケアである」と丁寧に説明を重ねることで、少しづつ信頼が生まれていきました。

訪問をきっかけに、これまで見えなかったSOSが浮かび上りました。

## 具体的な関わりとケアの工夫

- ・褥瘡処置を継続し、症状の改善と清潔保持を徹底
- ・**栄養不足**を看護師が指摘し、食事支援の必要性を本人へ繰り返し説明
- ・障害課へ直接働きかけ、ヘルパー導入を実現（食事・清掃援助）
- ・「必要なケアを受けることは生活を守ること」と伝え続け、  
ご夫婦が支援を受け入れられるよう伴走



## 看護介入が孤立支援の起点になることも

訪問看護の介入がなければ、孤立したまま生活は悪化を続けていたかもしれません。

看護師が**支援の起点**となり、**障害課やヘルパーにつなげた**ことが、ご夫婦の生活を支える大きな一歩となりました。

これからも楓の風は、医療的ケアだけでなく、生活再建の架け橋となる訪問看護として、地域に貢献していきたいと思います。

在宅支援  
療養

楓の風